

農業の未来を考える Future Design 体験！

嶋田 喜一 人と自然の共生ネット 会員
京都府地球温暖化防止活動推進員
みどりむし嶋田農園

今年2023年の夏は、今までで一番暑い夏だったようです。この丹後でも、35℃以上の猛暑日をしっかり体験し、農作業などでは扇風機付きの空調作業服が必須となりました。地球温暖化の進行を気にして、少しでも、自分だけでもと温暖化防止活動を心がけてきましたが、気候変動の恐れられてきたことがいよいよ現実の体験となってきました。

このような進行を続ける地球温暖化の状況の中で、今後どうすれば持続可能な農業ができるかを考えるために、日頃農業に従事していることに関するアンケートが行なわれました。京都気候変動適応センターが、水稻への気候変動影響と必要な対策の検討を行なうための事業です。アンケートに協力する中で、「京都における農業の未来を皆で考えるFuture Design」について、農業関係者・行政担当者・研究者の「産・官・学」の三者の参画で検討会が行なわれることとなり、Future Design（将来世代の視点・フューチャーデザイン）という手法を初体験させていただきました。オンラインでの意見交換会（2023.7.14.）と第1回北部現地検討会（2023.8.8.）です。外来語恐怖症の私にとっては、初めての言葉であり理解に手間取りましたが、実際にやってみると、なかなか楽しい、おもしろい体験となりました。

フューチャーデザインとは「様々な課題に対し、現役世代だけでなく、その課題の影響が及ぶ将来世代の立場も踏まえて議論しようという取組みであり、例えば、参加者が将来世代役の立場に立って議論を行うことなど（2022年秋の財政制度等審議会資料より）」のようです。第1回北部現地検討会は、農・政・学から各1名とファシリテーターの4名構成班が2班で行なわれました。30年後の2053年に、現在のままの年齢でタイムマシンでタイムスリップし、そこで生活しているつもりで課題について考えて対話する、という手法です。30年後に今のままでタイムスリップし、その世界がどうなっているか、どうあってほしいか考えて、そして、未来人の立場で2023年の私たちがどうしたらよいか、どうしてほしかったかを話し合う、というものです。30年は、ちょうど一世代くらいであり、考えやすい期間であり、現在のことを過去形で話し合う中で、少し変わった視点が出てきて、それがおもしろいところでした。

30年後へタイムスリップする練習として、30年前のことを思い出し、自分の人生のターニングポイントとなった出来事を考えました。30年前の1993年は、平成の米騒動（日本における記録的な冷夏による米不足現象の総称）の年でした。1993年の米の作況指数は74であり「著しい不良」でした。また1991年の不足（作況指数95）により、在庫量が少なかったことも拍車をかけ、市場から米が消えていきました。百姓は、一年間の食べる米は保有していますが、都市生活者にはかなりのショックだったようです。日本の米しか見たことのない自分にとって、外食で体験した緊急輸入されたタイ米・細長い米（インディカ米）にはビックリでした。この米騒動は、ささやかな日曜百姓をやっていた自分には、大きな転機となりました。それまでは漠然と農業はやっていきたいと思っ

ですが、しっかり農地を守り、一族に米を供給できるよう頑張っていきたいと認識を新たにしました。耕作を委託していた農地が返還されてきて、徐々に耕作面積が増えている時期でもあり、その後は農業設備への投資が増えました。14年後の2007年3月に退職し、その退職金によってめざす設備が整ってきました。

また、1990年代は環境問題のグローバル化がさらに進み、地球温暖化は二酸化炭素排出の増加が地球の気温上昇を引き起こすことが科学的に予測されるようになり、1997年12月に京都で開催された第三回締約国会議（COP3）で京都議定書が採択されました。その頃は、京都府保健所で環境対策を担当しており、地球温暖化でどんなことが起こるのか、温暖化防止のためにはどうしたらよいのか等の啓発を行っていました。啓発資料を見ながら、ほんとにこんな影響が起こるのだろうかと思いつつ行っていました。それから30年が過ぎ、当然のことながら予測どおりきっちり現実のこととなっています。異常気象の頻発、集中豪雨・大洪水と竜巻の発生にビックリです。そして、丹後でもお米・コシヒカリの耕作が難しくなってきました。米作りの温暖化適応策として、コシヒカりに替わる高温耐性で食味の良い新品種「京式部（きょうしきぶ）」が開発され、その耕作転換が現実課題となってきています。

さて、2053年はどんな世界でしょうか。30年前の予測がほぼ現実となってきた体験からすると、現在予測されていることは間違いなく起きているだろうと思います。そんな世界にタイムスリップして、その時代に暮らす今の私と同じ年となっている息子、その子孫たちに出会ったとき、どんな顔をすれば良いのでしょうか。地球温暖化は、今の私たち団塊世代が高度経済成長を牽引して、地球の資源をむさぼった結果であることは当然で、その世代は食い逃げしたとされているでしょう。そして、地球の平均気温は、100年間で2℃上昇した現在より、更に0.7℃の上昇です。科学力などを駆使して、災害対応等への予測力や適応策を充実させて、何とか元気に暮らしているだろうと思いますが、非常に気持ちが複雑です。

水田農業は、どんな状況でしょうか。自然環境をもろに受ける状況の中で、ハウス栽培や屋内栽培以上に大変です。地域の中では耕作者が半減し、水田等の農地や地域の環境維持が少人数での作業となり、困難です。営農は、共同化や大規模耕作者の活躍により、何とかされているでしょう。しかし、不便地等は耕作放棄されて、水路や周辺の草刈り等、地域の環境整備が、大きな負担です。大型機械や新開発の農機等により、少人数で頑張っている様子が浮かびます。食糧自給率の向上のために、これらの機械設備や耕作担い手への費用助成が大幅に向上し、地域全体で農地や地域の環境保全に取り組んでほしいです。

未来人になって考えてみるという体験をしてみて、今まではどうしても悪い方向へ思いがちでしたが、皆さんの意見をお聞きする中で、様々なことに思いを向けることができ、愉快的な体験となりました。地球生活が、持続発展できますように !!

▼ 2053年の世界から元気に帰還した面々 !!

